

編集後記

会報 22 号を 2014 年 12 月に HP に掲載いたしました。14 号から特集を組んできましたが、今号から論壇を復活し、10 名の会員の方に原稿を書いていただきました。示唆に富む力作揃いですので、ぜひ皆様お読みください。

さて、私事ですが、2014 年 6 月に 70 歳になりました。1 年前の 10 月から全ての常勤職から身引き、現在は非常勤だけになり、体力は衰えましたが、のんびりと過ごしています。しかし、毎週末には小 6 の孫とウォーキングを続けており、武蔵野台地の川や上水(用水)はほぼ歩き尽くしましたので、今は生まれ育った埼玉県草加市を中心に埼玉と東京低地を含めて歩いています。現代は最終氷期の後の後氷期にあたりますが、氷期には海面が 130m ほど低下し、東京湾は陸地となり、現在の東京湾口から先が海だったとのこと。そのため東京湾の底には古東京川の痕跡があるとか。その後、間氷期になり海水面は上昇しましたが、さらに縄文時代には海面が今より数 m 高くなり、東京低地や埼玉東部の低地は海だったようです。つまり東京は洪積台地の武蔵野台地と沖積平野の低地よりできているとのこと。従ってタクシーに乗って山手に行く時は坂の名前を、東部の低地に行くときは橋の名を運転手に告げると良いとのこと。

ところで小田原城が落城し、秀吉により江戸に移転させられた徳川家康が 1590 年に江戸に来た時は江戸は寂れた場所で、日比谷入り江があり低地は利根川や荒川が流路を毎年変えて流れていました。そこで家康は利根川の東遷と荒川の西遷を企画し、江戸を洪水から守るよういろいろな考えたようです。草加市を流れる綾瀬川もかつて荒川や利根川の一部であったことから別名「あやしの川」と言われていて、毎年流路を変えていました。つまりこの辺りは低湿地でしたが利根川東遷や荒川西遷のおかげで、新田や住宅地に変わりました。このような経緯を含めて勉強しながら孫と歩いています。ただ体力は相手が登坂なのに対してこちらは下り坂なのが問題です。いつまで続けられるやら。

(文責 會田勝美)